

令和3年度(2021年度)学校評価報告書

園名	宝塚市立 丸橋 幼稚園	園長名	米本 美千代
----	-------------	-----	--------

1 幼稚園教育目標

豊かな心を持ち、たくましく生きる幼児の育成

2 重点目標

○ 一人一人のよさを生かす工夫をする	○ 幼児自らが考え、主体的に遊べる環境をつくる
○ コロナ禍の中での、安心な生活の工夫をする	

3 幼稚園自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

職	評価の観点及び評価項目	達成状況	幼稚園の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの幼稚園関係者評価
園運営	開かれた幼稚園づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度は昨年度の経験を生かし、オープンスクールや参観日、運動会など、感染症対策を講じながら実施した。回数・時間・人数などの制限を行なうなど、従来とは大きく違った内容になった。生活発表会は、まん延防止措置により、保護者に直接参観していただくことができず、映像での参観となった。今後、園児の姿を通しての幼稚園教育への理解をいただくための、よりよい方法についてさらに考えていく。 ○ 保護者サークルでは、保護者に図書貸出し・花壇・畑整備や日々の水やり、看板作成などで活躍いただいた。 ○ 園の様子を知っていただくために、ホームページ・手紙・写真の掲示などを努力してきた。しかし、「職員から直接伝えてもらいたい」「普段の姿が見たい」という声が聞かれる。今後伝え方について工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「まるはっしこギャラリー」では、園児の描いた絵の展示や、書いているコメントにより、その時期に園で取り組んでいることや様子が、地域の方にも伝わっている。 ○ 「できるときにやっておけばよかった」というのは、結果論になるので、今後の取組に活かしていけるようにすることが大事。 ○ 生活発表会では、直接保護者には見てもらえなかったが、DVDに残すことで、子どもや保護者にとって大きな財産となる。今後もDVDに残す取組を残してもらいたい。 ※ 園評価ではBとしていたが、Aが適切であるご意見をいただいた。
	子育て支援の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 従来3歳児対象としていた「くまさんクラブ」は今年度、2・3歳児対象とした。「対象年齢が広がり嬉しい」という声も聞かれる。参加親子は楽しみに来園されていることを感じている。未就園児対象の園庭開放も行った。しかし、その時期の感染状況によって未就園児には来園いただけない期間も多かった。今後、来園いただけない期間も、ホームページで頻繁にメッセージを発信するなど、未就園児と常につながる工夫をしていく。「まるはっしこひろば」実施も検討したい。 ○ 保護者に日々の園児の姿を見てもらったり、様子を伝えたりする雰囲気づくり積極的な場の工夫をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2・3歳児が楽しんで園で過ごせることで、就園への滑らかな接続にもなる。 在園児の兄弟関係や、その他の新しい人にもおおいに未就園児保育を利用してもらいたい。
	危機管理体制の整備	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心安全な生活のために、その時の感染拡大の状況に応じて対策を図るよう心掛けている。今後も、気を緩めず、適切に感染対策が行われているか、日々確認・点検しながら行っていく。 ○ 火災・地震・不審者など、具体的に想定をして避難訓練をする中で、繰り返し実践ことが身に付くことにつながることを再確認している。今後も年間計画に基づき、避難訓練を重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症予防として、園児は日々マスクを着用して生活している。園児のがんばりも十分に認められる。 しかし、幼児期は特に、人とのコミュニケーションにおいて、表情での伝え合いが大切である。職員が表情の見えるマスク着用をするなどの工夫をしていくことも考える必要がある。

	教職員の 資質向上	教職員間で日々具体的な保育カンファレンスを行い、幼児理解に務め、全体で園児を育てる。日々保育を通して、保育点検を行い、環境構成や援助について学び実践に移す。	B	○ 職員間で実際の幼児の姿から、幼児の育ちや課題についてや、保育の方向性や具体的な指導の中身などについてなど、日々話し合い、共有している。 職員それぞれの立場において、自分の役目を意識し、互いの資質向上に努め、多面的に幼児の育ちを支援し、園の教育充実につなげていく。	○ 人数が減っている分、職員もフォローし合いながら日々取り組むことが大切である。
教育課程	幼児期に ふさわしい 生活の展開	幼児自身が興味をもち、自ら取り組んで学べる環境構成や援助を工夫する。個々の幼児のよさを生かしながら、遊びを通して幼児期にふさわしい学びが得られる保育内容を工夫する。	A	○ 新型コロナウイルス対策のため、従来通りの保育内容を変更する部分もある。安全を確保しつつ、個として、また集団として、その時々に必要な経験や学びができるように工夫してきた。 今年度、保育にカメラやOHCなどを取り入れ、幼児の経験できないことを見ることで知ったり、友達とのつながりを深めたりすることに活用した。今後も映像機器などを取り入れるなどの工夫をしていく。 交通機関を使つての遠足が実施できなかった。今後行事等の実施について、感染の状況を見ながら可能なときに実施するなど、さらに柔軟な対応を工夫する。	○ 現在の社会状況の中、子どもたちは家庭でも、ICT にふれる機会が多い。いろいろな場面で使ったり慣れたりしていくことが大切である。 ○ 遠足は、子どもたちにとって、楽しい思い出が残る大切な経験である。今後、交通機関について、一律に不可能ではなく、十分に感染症対策を図ることに加えて、そのときの状況に応じて、1時間程度までの移動なら OK とか、行先で戸外で過ごすという条件にするなど、行ける対応を考えることが大切。
	道徳性の 芽生え	友達とのかかわりの中で、想いを伝え合い、相手を理解し受け入れて共に生活する力を育てる。	B	○ 幼児が思いを分かり合えるよう、自分の思いを出すことや、必要に応じて見守ったり橋渡しをしたりすることを大切にしている。 今後も友達同士でかかわりきる経験が重ねられるように援助していく。	○ 友達同士かかわることで、互いの思いが分かるようになる。今後人数が少ないことを利点として、異年齢交流にも重点をおき、工夫していくことが大切である。
課題教育	校種間の 連携	感染状況をみながら、子ども同士の交流をする。連携については、意義や進め方について小学校や保育園と話し合い、計画的に実施する。	B	○ 今年度は、「つながろう！プレ1年生」で幼児同士の交流を実施することができた。3学期に計画をしていた学校授業参観は、残念ながらもまん延防止重点措置のため実現しなかった。 保育園や小学校職員同士の話し合いの場をもったり、就学前に5歳児が校長先生に話をさせていただいたりした。今後も交流実施の工夫をしていく。	○ 授業参観が実現できなかったことは残念である。2学期・3学期頃に担任の先生に来ていただいてもよいのではないかと。就学を不安に思っている幼児も先生から直接、小学校に行くと、こんなに楽しいことがあるということを伝えていただくと、親しみをもてると思われる。
	人権教育	個々の教職員自身の人権意識を磨き、人権尊重の姿勢で保育にあたる。	A	○ 教職員自身が、常に人権意識を磨き、一人一人の園児や保護者を尊重し大切にすることが何より重要である。教職員の意識や姿勢が、幼児の友達を大切に育ちにつながる。	○ 子どものときに、友達を大切にすることをしっかり身につけておくことが将来の人格形成にもかかわってくる。

5 幼稚園評価の実施方法についての幼稚園関係者評価

○ 実際の幼児の姿を見たり、話し合ったりして評価しているので、適切である。

6 総合的な幼稚園関係者評価

○ 今年度の点検したことを、今後活かしていくことが大切である。
